

## 腰椎椎間板外側ヘルニアに対する 経皮的内視鏡下手術 (PELD)\*

三浦 恭志 伊藤 不二夫  
中村 周 田口 弥人

あいち腰痛オペセンター

池田 尚司

八千代病院整形外科

**Key words:** 腰椎椎間板外側ヘルニア (Lateral lumbar disc herniation), 経皮的内視鏡 (Percutaneous endoscopy), 最小侵襲脊椎手術 (Minimally invasive spinal surgery)

### はじめに

腰椎椎間板外側ヘルニアは、椎間孔内から外側にかけて突出したヘルニアで、ヘルニアの存在する位置の特殊性から、後根神経節を刺激して激しいしびれ痛みを引き起こすことが知られている。また、場合によっては exiting と traversing 両方の神経根を障害することがあり、ヘルニア全体の3~10%の頻度といわれている。MRIで見落とされることもあって診断上も問題であるが、治療でも椎間関節の切除を考慮するなどの問題がある病態である。

今回、経皮的内視鏡手術 (percutaneous endoscopic lumbar discectomy; 以下, PELD) で腰椎椎間板外側ヘルニアに対する治療を行ったので、PELDの有効性を検証して報告する。

### 対象と方法

平成19年3月から平成20年4月に手術した腰椎椎間板ヘルニア272例中、23例(8.5%)が外側ヘルニアの症例であった。性別では、男性17名、女性6名と男性に多く、平均年齢は55歳であった。得られた結果の統計学的検定には、Mann-Whitney U testを用いた。

手術方法: PELDでは、正中より6から8センチ外側から extraforaminal approach にて scope を挿入すると、直接外側ヘルニアに到達し、切除することが可能である (図1)。内側・外側同

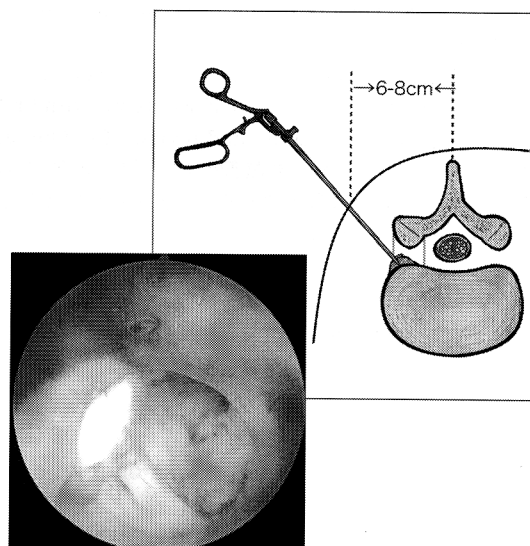


図1. Extraforaminal 法。

正中より7cm前後の後外側より椎間孔内から椎間孔外の外側ヘルニアに到達する。

時に存在するヘルニアに対しては、scope を傾けることで脊柱管内にも到達可能である。

### 結 果

罹患レベルはL3/4 4例(17.4%)、L4/5 6例(26.1%)、L5/S 13例(56.5%)で、L5/Sに多かった。

\* Percutaneous endoscopic lumbar discectomy (PELD) for lateral lumbar disc herniation.  
本論文の要旨は、第69回東海脊椎椎髄病研究会学術集会で発表した。